

2024年 静岡県立 静岡商業高等学校

勉強会 質疑応答の内容

## 保護ではなく TNR の理由

※ ネコの繁殖力は強いので  
保護だけでは対応しきれない  
ので TNR が 必要 2 倍 必要

猫は年に 3~4 回の出産をします

一回に 4~6 匹生むので保護のキャパを超えてしまいます

生まれた子猫の全てが健康に育つ訳ではない事

また、母猫は繰り返す出産と育児で消耗して弱っていきます

母猫の避妊手術をする事で母猫は自分の命を最優先に考え穏やかに暮らす事が出来ます

オスが去勢手術をした場合はメスを探して遠くまでいなくなります

ケンカもなくなり交通事故や怪我が無くなります

## 保護した猫の病気

病院にかかります

保護主と動物病院の双方で信頼関係を築くことがとても大切になります

金銭的理由で高額な医療が必要でも受けられない場合もあると思いますが

自身で出来ることをやる事が大切だと私は考えます

## 保護してから手術リリースまでの期間

### TNR

(Trap 捕まえて Neuter 不妊手術 Return 元の場所に戻す)

手順

① 獣医師会に所属している動物病院に TNR をやりたい旨を連絡する  
動物病院は静岡市動物愛護センターに捕獲器の貸し出し要請をする

② 動物病院と話をして通院とお迎えの日時を決める

③ 捕まえて通院→お迎えリリース

病院や依頼者の都合によりリターンまでの時期は変わってきます

また賢く捕獲機に入らない猫を捕まえる方法もあります

捕まえ方は猫や猫のいる地域の環境によってケースバイケースです

### 元の場所に戻すメリット

誰もが猫を飼育出来るわけではありません特に独居の老人はそうです

自宅にご飯を食べに来る野良猫を可愛がっている高齢者は少なくありません

TNR をして子供を産まない作らない猫を地域で可愛がる事ができます

高齢者が室内に猫を入れてしまった場合、猫は飼い猫になります  
個人の所有物になる猫は飼い主が飼育できなくなった場合、  
殺処分の対象になります

猫のいる環境によって違いもありますが複数人の人がさくらねこを可愛がっている場  
合、幸せに暮らせる場合もあります

それが近所の独居高齢者なら私は猫も人も幸せだと思います

### 元の場所に戻すデメリット

交通事故 エサやりが居なくなった場合 猫の病気や怪我

### 飼い主を探すデメリット

人によりけりですが、譲渡会、トライアル、正式譲渡までの手間がかかります  
知り合いに渡す訳ではないので譲渡先が猫の生涯を可愛がってくれるかの判断も難し  
いです。また子猫は生後半年以上を過ぎないと検査できない病気もあります白血病の場  
合まず里親は見つかりません。猫を保護した時点で猫は保護者の所有物になります保護  
する場合はそこまでの覚悟を持たなければいけません

### 飼い主を探すメリット

野良猫の寿命平均 5~6 年 飼い猫の平均寿命 13~15 年  
暑さ寒さ飢えに困る事もなく医療も受けられます

### 費用

TNR の場合、基本は野良猫の暮らす地域住民が TNR 費用は出しますが費用が出ない地  
域もあります。猫を保護した場合は保護主が検査費、初期処置、治療費、消耗品全てに  
かかる料金を負担して正式譲渡が決まった時にその一部を里親さんから頂きます猫の  
状態にもよりますが少なくないお金が必要になります。クローバーでは自分たちで持ち  
出しがほとんどです応援して頂いている方からの支援金も使います。ただ、お金=幸せ  
ではない事

猫を飼うにはある程度のお金と愛情の両方が必要となりますクローバーのメンバーは  
経済的に余裕のある人が多くいます自身たちの持ち出しで比較的到手厚い保護譲渡活  
動と TNR 活動が出来ます。また支援金に頼る愛護活動は支援金が無くなれば破綻しま  
す。すごくお金が必要になるかといえば、そうではなく、ひとりで一匹の猫を保護する  
場合はおこずかいの範囲で保護できる場合がほとんどです

## TNR 活動 地域での問題

猫が嫌いな人で何が何でも野良猫がいる事を許さない人がいます  
一匹でも許さないです「

その人が近所で有名な変わり者だった場合、多くの地域住民が TNR に賛成でも  
野良猫を許さない人がやっかいだった場合に近隣トラブルを避けるために TNR 地域猫  
活動は中止になります。非常に残念なケースです

野良猫が迷惑だと思っても猫を殺傷する事や猫を違う場所に捨ててくる事は  
動物愛護法違反になり罰則があります

その地域住民の考え方などにより対応の方法は変わってきますが  
地域で野良猫問題が大きくなった場合はレベルの高い仲介が必要になります  
野良猫問題は猫が問題では無く人間の側に大きな問題があります

## 捕獲の仕方

捕獲機を持参

捕獲器以外にも  
方法があります  
キャリー等いくつかの場合同様に  
あります

## 高校生に出来る愛護活動

高校生に出来る愛護活動は少ないと思いますが、  
必ず出来る事はあると思います。ご家族の協力が必要なケースが多いと思います  
愛護活動の在り方は人それぞれで違います  
自分が動物愛護をする時に何がしたいのか？将来に向けて考えたらと思います  
また、  
沢山の情報が溢れています  
自分が見て体験した事が真実です正しい知識と情報を取り入れましょう  
知識は力になります

## 活動の範囲

静岡市内です

私たちは静岡市内に住んでいるので市外に出ると動物病院等と連携が取れなく  
力を発揮できなくなります

## 飼い猫か野良猫かの判断

その野良猫を管理（エサを与えている人）の情報です  
また迷い猫情報の確認や病院でマイクロチップが入っていないかも確認します

## 野良猫にエサを与えるか？与えないか？

永遠のテーマです（笑）

私は迷わず与えます。与えるだけでなく保護します

（野良猫にエサを与えてはいけない法律はありません）

飢えている猫はビニールや砂、石を食べます。それはどれほどの飢えでしょう

こんな悲しい事はありません自分に出来る事は何なのか？

人によって違います。困っている猫を見つけたら助けられる人になって下さい

## 野良猫にエサをあたえている人がいたら

中には偏屈な人もいるのでご両親や友人と一緒に TNR を知っているか？

話しかけてみても良いと思います TNR を知らない人もいます

笑顔で「かわいいですね」など軽く話しかける事が大切です

無理はしないようにしましょう

## TNR が多い月

春と秋 子猫が生まれる前の TNR を望む相談者さんが多いです

## TNR 団体

少し前に静岡市に聞いたら TNR を専門とする団体はクローバーのみだそうです

## 活動の手ごたえ

殺処分の数が減っています 2023 年度 10 数匹です

## TNR に反対する人

ちゃんと話せば TNR を反対する人はほとんどいませんが

何が何でも反対する人がいます。猫を増やさない方法は TNR しかないのに

残念に思います

反対する人の特徴

農家 畑に糞尿をするため

愛鳥家 鳥を猫に殺されたことがある

不衛生なエサの与え方 置きエサ エサを与える人が隠れて与えて姿が見えない

発情期の鳴き声

車やバイクが汚れる傷をつけられた

一匹の野良猫でも許さない人も稀にいますが

基本は増えすぎた野良猫とマナーの悪いエサの与え方と糞尿が問題になります

### 活動を始めるにあたって準備した事

最初は自分のおこづかいで出来る範囲で TNR 活動をする予定でした

活動を始めた 10 年前は今より野良猫の数が多く、おこづかいの範囲では需要に追い付かないと考え会は少しずつ大きくなりました経験を重ねるごとに知識が身に付き有志の仲間が増えたことで活動の幅が広がりました

愛護活動のやり方は人それぞれです

明らかに間違っていない愛護活動の場合それを非難するのはやめましょう

ボランティア団体は愛護の考え方の確執で連携しないケースが多くあります

皆が同じ考えであるわけが無く、考え方は人それぞれです

私は確執をナンセンスだと考えています

目的は同じなのだからゴールに向かって協力できる人間力も大切だと思います

### 動物愛護 法制度に望むこと 今後始めたい事

ちゃんと書くと長くなってしまうので概要を書きます

これから先は外で増える野良猫では無く飼育放棄される猫に問題は変わって行くと思います飼育放棄された猫や犬は殺処分の対象になります

高齢化が進んでいますが健康寿命は延びていて高齢者の定義は変わって行くと思います。一般的な譲渡会では 60 歳以上の方に猫の譲渡はしません。

ご夫婦揃って健康な 60 歳が猫を飼育してはいけないのはナンセンスだと私は思いますもちろん誰もが猫を飼育出来るわけではありません

それは高齢者に限らず若い人でも同じです

今後増えていく、行き場の無い飼育崩壊した猫が 10 歳だったら

元気な 70 歳のご夫婦でも飼育することは可能ではないでしょうか？

また仕事を引退して自宅にずっと飼い主がいてくれる猫は幸せだと思います

一人であるより猫と一緒に暮らす事で高齢者の生活は限りなく豊かになります

民生委員 福祉課 病院など高齢者に関わる人たちが動物愛護センターとつながり

飼育崩壊する前にベストを考える。または飼育崩壊してしまったら猫を飼いたい元気な高齢者に猫を渡すそうする事で猫も人も幸せになれると考えます

## 最後に

日本は動物愛護の後進国だと言われます。アジア圏は多くがそうです  
ヨーロッパは動物愛護先進国と言われています

ヨーロッパには寄付文化があり、アジア圏は子供に財産を残す文化があります  
ヨーロッパには動物愛護に使う資金が多くあるという事です

ボランティアは尊い行いだから私財を全て使い無償で愛護活動をするべきか？  
それは違うと思います

いくら私たちが勉強してスキルアップを重ねても人数が少なすぎて戦力としては弱い  
広く市民に伝えることで、広く浅く関わる人を増やし、総戦力に持ち込めば  
地域社会全体が変わって行きます

行政が本気になると町は変わります  
特に高齢者や生活困窮者のペット問題は福祉関係者との連携を強めるべきだしペット  
防災も既存の防災関係者と連携しなければ進んでいきません  
他機関連携が必要です

どうか皆さんが社会人になった時に日本がペットにも人にも優しい世界になるように  
愛護活動を学んで下さい

TNR 推進団体クローバー